

龍 灯

第 1 1 号

発行所

大阪市史跡 龍溪禅師墓所
霊亀山 九 鳥 禅 院
〒550 大阪市西区本田 3丁目4-18

発行人

住 職 奥 田 啓 知 (智 證)
☎06-582-5772

森高千里という女性歌手が歌う『私がオバさんになっても』という歌謡曲が評判になっていきます。昨年末の紅白歌合戦にも出場したのでご存じな方も多いと思います。歌詞はざっと次のようなものです。

「秋が終われば冬が来る、ほんとに早いわ。・(略)・私がオバさんになっても、泳ぎに連れてくの? 派手な水着はともムリよ。若い子には負けるわ。私がオバさんになっても本当に変わらない? とでも心配だから。あなた? 若い子が好きだよ。十九だと、あなたがいったのよ。・(略)・私がオバさんになっても、デイスコに連れてくの? ミニスカートはともムリよ。若い子には負けるわ。・(略)・私がオバさんになっても、あなたはおジさんよ。お腹がでてくるのよ。・(略)」

要するに、私がオバさんになっても、若い時と同じように愛してくれるの? という気持ちを歌ったものです。

「私がオバさんになっても」という歌詞を裏返すと、若さこそ素晴らしいという価値観がみえます。『オジंकさぁ』とは、吉本新喜劇のギャグのひとつですが、仏教では「若さ」と「老い」についてどのように説いているのでしょうか。

仏教では、この世のいっさいが「苦」であると教えています。お釈迦さまは、基本的な苦として「四苦(しく)」をあげられました。①生 ②老 ③病 ④死で、この四つが人間にとって根源的な苦しみであるというのです。さらに、この四苦にくわえて、あと四つの苦があります。あと四苦は、まず「愛別離苦(あいべつりく)」「愛別離苦(あいべつりく)」「愛別離苦(あいべつりく)」といつて、愛する者と別離しなければならぬ苦しみ、つぎは

怨憎会苦(おんぞうえく)「でうらみ、憎んでいる者と会わねばならない苦です。第三は「求不得苦(ぐぶとつく)」「求めて得られない苦しみ、最後は「五盛陰苦(ごじょうおんく)」で自己に執着することから発する苦しみです。「四苦八苦(しくはつく)」という言葉は、ここからきています。

『バスのラーの白い空から』という遺稿集(佐野英二著、昨年六十五歳で病死)のなかに、人間の年齢に関する深い示唆とんでいる一文が載っていました。こんな話です。

社宅の執事ババロケに年をたずねると、「約四十歳だ」と言う。それを面白がって、日本から旅行者を招いた席で彼に再度たずねると今度は約三十五だ」と言う。

「その当時、僕は何と軽薄で

私がオバさんになっても
古い・若さの基順はない



